

エナジー

デジタルと革新的技術で
グローバルなエネルギー安定供給を実現

執行役専務
エナジーセクターCEO

アンドレアス・シーレンベック

事業環境

世界の総エネルギー消費に占める電力のシェアは増加傾向にあり、2030年までに25%、2050年までに40%以上に達すると予測されています。また、世界の電力投資は2015年から2025年までの間に、化石燃料への投資が減少した一方で、再生可能エネルギーへの投資は2.0倍、送配電網および蓄電システムへの投資は1.4倍、電化への投資は2.4倍、原子力への投資は1.7倍へと拡大しました。このような環境下において、パワーグリッドの市場規模は、電化と需要の拡大や再生可能エネルギーへの移行などを背景として、2025年の約2,700億ドルから2035年には約4,500億ドルに達すると予測されています*1。また、原子力の市場規模は、従来の大型炉に加えてSMR*2市場の成長も背景に、2050年には約1,300億ドルまで拡大する見込みです*3。

Inspire 2027の進捗

2025年度には売上収益 32,199億円、Adj. EBITA率 12.9% とそれぞれ過去最高値となる業績を達成しました。ROICも15.4%と前年比6.9ポイント改善し、前年度比で設備投資を92%、研究開発費を22%増強する積極的な投資を行いつつも、資本効率と大幅な収益性向上を実現しています。また、こうした2025年度の好調な業績と継続的な市場の成長を踏まえ、Inspire 2027におけるエナジーセクターの目標値を上方修正し、2027年度までに年平均売上成長率 (CAGR) 15~17%*4、Adj. EBITA率 14%超、ならびにROIC 20%超の達成をめざしています。また、長期目標として2030年度までの売上CAGR約14%*5、2030年度のAdj. EBITA率16%超およびROIC 25%超を掲げています。これらの目標達成のため、引き続きエネルギー転換がもたらす市場機会を的確に捉え、セクター全体でLumadaやHMAXを含むAI・デジタル技術の活用を推進していきます。パワーグリッド事業では受注残の着実な実行やキャパシティ拡大投資、革新的技術によるマーケットリーダーとしてのポジション強化などに引き続き注力し、原子力事業では国内BWR*6再稼働、新規プラントの建設再開、福島復興への貢献に加え、GEベルノバとの合弁会社を通じたSMR事業の展開による市場機会の獲得など、さらなる成長と変革に向けた優先事項に取り組んでいきます。

コアを強化



オペレーショナル・エクセレンス
キャパシティ拡大への投資を継続
M&Aおよびパートナーシップ
日本国内の原子力事業

戦略的成長を加速



収益性の高い市場機会を獲得
No.1サービスプロバイダーへ
過去最大の受注残と長期的な市場見
通しにより、確信度の高い投資を実行

AI、デジタル、革新的技術を活用



AIへの投資を加速
テクノロジーリーダーシップを強化
SMRのグローバルな事業機会を獲得

事業構成

原子力BU 2,110億円 (7%) パワーグリッドBU 30,056億円 (93%)

2025年度
売上収益
32,199億円

パワーグリッドBU

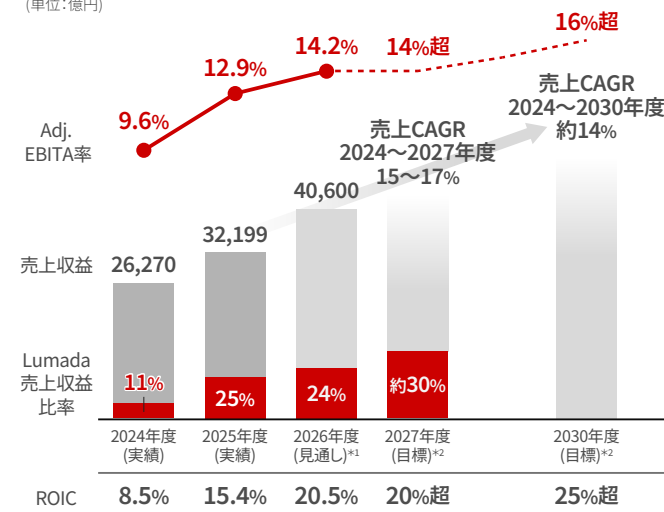
- ・変圧器
- ・高電圧製品およびスイッチギア
- ・HVDC (高圧直流送電)
- ・グリッド&パワークオリティソリューション
- ・サービス
- ・オートメーション&保護システム
- ・エンタープライズ&アセットマネジメントソフトウェア

原子力BU

- ・原子力プラント
- ・廃止措置対応
- ・原子燃料サイクル

業績推移／Inspire 2027業績目標

(単位: 億円)



*1 2025年の日立エナジーによる市場評価。非連結ベース、2025年度予算レートに基づく *2 Small Modular Reactor (小型モジュール炉)

*3 出典：国際原子力機関 (IAEA) および国際エネルギー機関 (IEA) *4 2024-2027年度 *5 2024-2030年度 *6 Boiling Water Reactor (沸騰水型原子炉)

*1 2026年7月29日公表

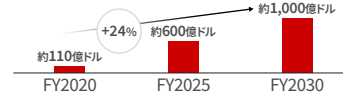
*2 2026年6月10日公表

受注残の確実な遂行と成長を支える投資

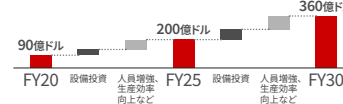
パワーグリッド

日立エナジーの成長を支える受注残は、過去最高の約600億ドル(2025年度末)を記録し、2030年度には1,000億ドル規模に達する見込みです。現在の受注残は売上収益の約3倍に相当し、今後も2.5～3倍の水準での推移が見込まれます。お客さまとのコミットメントを果たすため、受注残の継続的かつ確実な遂行が重要となります。その実現に向け、90億ドル超の業界最大規模の投資^{*7}を進めています。投資は、顧客の需要と収益性が確保された案件のみに実行するという規律を徹底しており、グローバルで40以上の投資案件が進行中です。

受注残推移



売上推移

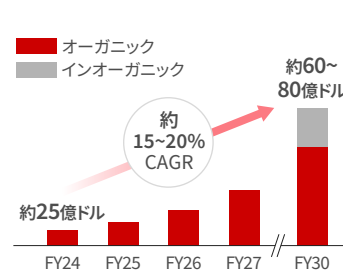


デジタルを活用したサービス事業の拡大

パワーグリッド

デジタルを活用したサービス事業は大きな成長機会であり、2025年4月にはサービス専任のビジネスユニット (BU) を新設し、成長に向けた優先事項を明確化しました。また同年10月には初のサービス領域へのインオーガニック投資として米国Shermco社への出資を完了するなど、次世代AIファクトリーを構築するハイパースケーラー向けにサービスを共同で提供するケイパビリティの確立を進めています。さらに2026年3月には重要エネルギーインフラ向けのデジタル活用サービス群「HMAX Energy」の提供開始を発表し、サービス事業の拡大を加速させています。2030年度に向けて、サービス事業はオーガニック・インオーガニック施策の両輪によりCAGR約15～20%^{*8}の売上成長をめざし、これにより現状約15%のサービス売上比率を、2035年度には30%以上へと倍増させる計画です。

サービス売上収益^{*}



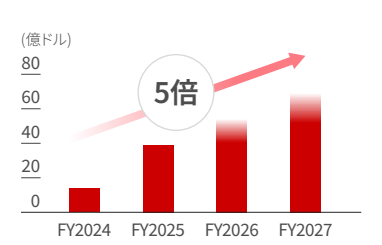
^{*} サービスには、ソフトウェアやシステムおよびプロジェクトを通じて提供される一部サービスを含む

高成長セグメントの需要獲得—データセンター

パワーグリッド

AIによる需要の急拡大を背景に、データセンター向けの受注は前年比150%超(2025年度)と大きく拡大しています。日立エナジーは高压開閉装置や変圧器、パワーエレクトロニクスなどの重要コンポーネントから、データセンターの計画・建設・運用の各段階でのサポートなど幅広いプロダクトやソリューションを提供しています。これらの幅広いポートフォリオやデリバリーの短納期化・標準化などによる優位性に加え、グローバルな事業基盤やキャパシティ増強などを生かし、2027年度には、2024年度比で5倍のデータセンター向け受注の獲得をめざします。

Hitachi Energyのデータセンター受注



高成長セグメントの需要獲得—原子力事業・SMR

原子力

日立は、日本における3分の2のBWRプラントに参画しており、すべてのABWRプラント(第3世代+)^{*9}の建設に携わっています。デジタル活用では、AIを用いた設計・許認可支援や、メタパスとAIを組み合わせた「原子力メタパスプラットフォーム」などの取り組みを加速させ、原子力発電所の設備利用率向上の支援ならびに安全対策工事や、新規建設・保全・廃止措置における設計から現場施工、資産管理までの作業効率化を推進し、お客さまの価値向上に寄与していきます。SMR事業では、日立とGEベルノバの合弁会社が受注したカナダの商用SMR初号機が最終投資判断を受け、建設を開始しました。また、ポーランドにおけるSMR汎用設計の推進をめざす協定を締結しました。引き続き、北米・欧州をはじめとするグローバル市場での機会の獲得と展開を図ります。

エネルギーセクターの競争優位性

パワーグリッド	原子力
190以上の国と地域・50万以上のアセット・2,400億ドル相当を誇る世界最大のT&Dインストールベース - 世界をリードするOEMの専門知識	- 専任グローバルサービスBU - IT×OT×プロダクトの強み - 世界をリードするアップグレード技術と改良技術

- 日本国内の3分の2のBWRプラントに参画、すべてのABWRプラント(第3世代+)建設に関与
- 蓄積された技術・ノウハウ・経験とデジタルの融合による新たなソリューションの提供

One Hitachi — DSSセクターとの協創事例

HMAX Energyの展開を加速 GlobalLogicを含むDSSのデジタルエンジニアの活用

環境負荷を可視化するデジタルプラットフォームEcoSpaceの提供を開始

HMAX Energyポートフォリオの一環である「EcoSpace」は、送配電網プロジェクトのライフサイクル全体を通じて環境負荷を可視化し、サステナビリティ対応を支援するデジタルプラットフォームです。電力会社や系統開発事業者、投資家に対し、信頼性と透明性が求められるサステナビリティ報告への対応と、データに基づく迅速な意思決定を支援します。

Ulinda Park BESSの信頼性の向上を支援

オーストラリアのクイーンズランド州Ulinda Parkにおける蓄電池エネルギー貯蔵システム (BESS) の導入を完了し、現在、HMAX Energyのサービス契約を通じて運用を支援しています。本プロジェクトはAkaysha Energyが開発した大規模蓄電池システム(定格出力155MW、定格容量298MWh)であり、再生可能エネルギーの統合と安定した供給を支えるとともに、電力システムの安定性の向上に貢献します。



オーストラリア クイーンズランド州のUlinda Park BESS